

2025年

風穴れ

人権のたより

通算第82号 8月29日発行

三重県立津東高等学校

いよいよ二学期が始まりました。有意義な夏休みを過ごすことができましたでしょうか。まだまだ暑い日が続きます。熱中症に注意しましょう。

○ 十七分の五 ～～一日でも早い、すべての拉致被害者の帰国を～～



1978年8月、富山県の海岸で結婚を間近に控えた二人が四人組の不審者に襲われ、誘拐されそうになりました。その後「富山県アベック拉致未遂事件」と呼ばれるようになったこの事件は一連の「北朝鮮による日本人拉致事件」が発覚するきっかけとなりました。

しかし、この事件取材し、さらに他の拉致事件にまでたどり着いたS新聞のA記者が1980年に報道した記事は、当時「虚報」、「誤報」として、それに続く記事も書かれずに黙殺されました。この記事が日の目を見るのは、1988年の参議院予算委員会での梶山静六国家公安委員長に

よる、いわゆる「梶山答弁」まで待たなければなりませんでした。

ところが、この答弁も日本政府が初めて、北朝鮮による日本人拉致事件を認めた歴史的な答弁であったにもかかわらず、TV、新聞による報道はほとんどなされませんでした。

結局「北朝鮮による日本人拉致事件」が注目されるようになったのはそれから9年もたった1997年、当時、13歳の中学生だった横田めぐみさんが1978年に失踪した事件が北朝鮮工作員の拉致による可能性の高いことが報道されるようになってからのことです。

なぜ拉致事件問題が黙殺され、話題にされてこなかったのか、ここでは、その理由に関して言及することはしません。残念ながら21世紀も1/4が経過した現在でも、この重大な日本の国家主権および日本人の人権の侵害事件は解決していないことは事実です。

日本政府が認定した北朝鮮による拉致被害者の数は17名、そのうち日本に帰国できた人は現在、わずか5人しかいません。すべての拉致被害者の帰国は急がれる問題です。

(政府拉致問題対策ホームページ <https://www.rachi.go.jp/>)

(YouTube 公式動画チャンネル <https://www.youtube.com/c/rachitaichannel>)

○ 異なる意見や主張の大切さ ～～心地よいSNSの陰に潜む危うさ～～

「私はあなたの意見には反対だ、だがあなたがそれを主張する権利は命をかけても守る」

これは18世紀のフランスの哲学者、ヴォルテールが、エルヴェシウスの著書『精神論』が焚書となった時の態度として、後の伝記作家が記したものです。ただ、この言葉はヴォルテール本人の台詞として、民主主義・自由主義、そして特に表現の自由や言論の自由の原則を端的に示した名文句としてよく流用されるようになっていきました。

SNSや電子掲示板で意見を交換することが多くなった現在、自分と同じような意見や思想を持つ人が多い場所でのコミュニケーションを繰り返すことで、それらが世の中一般においても正しく、間違いないものであると信じ込み、それ以外の意見や主張を排斥する人も増えています。ヴォルテール本人の言葉ではないにせよ、異なるもしくは対立する意見や主張も大切にすることは、まさに現在こそ必要とされるものではないでしょうか。